

大相撲夏場所観戦日記
毎日気がついたことを少しずつ

先場所新入幕で優勝という、史上稀に見る偉業を達成した尊富士は足首の故障が癒えず休場。また、小結に復帰した朝乃山が稽古中の怪我で休場。横綱・大関陣も怪我を抱えて不安だらけの力士が多く、無印良品は極めて少ない。そんな状況で五月場所は始まった。

<1> 初日に見えた景色

怪我を抱えて何とも気合いの入らぬ剣翔を、37才の宝富士が教科書どおりの手はずで破った一番で、場所が始まった。欧勝馬・竜電・錦富士・北勝富士・金峰山と、正攻法の相撲で勝ち名乗りを受ける力士が続いて、ここまでの取組では「引き技・叩き技」は見られず、爽快な気分で鑑賞できた。

玉鷲は年令を感じさせない迫力有る前進相撲で琴勝峰を撃破、翠富士は絶好の位置でまわしを取り、一方の手では低い姿勢から上に向かって絞り上げるようなハズというセオリーどおりの攻めで錦木を寄り切った。

ここまでの相撲を見る限り、「良い相撲が見られる場所」という感じがした。ところが三役力士は……。

○関脇阿炎は、いつも以上に腰高で気合いの欠けた立ち合いで、翔猿の激しい動きに翻弄されて全く対応出来ず、最後は引き落としで転がされた。

○関脇若元春は、先場所大勝ちして勢いに乗っている高安の、力強いしかも粘り気のある動きに完敗。

○大関霧島は、腰高気味でやや圧力不足のふわっとしたような立ち合いで、成長著しい豪ノ山の鋭い押し相撲の猛攻を受けて、抵抗する時間も無く土俵外に運ばれた。

○大関貴景勝は、仕切りの間の所作を見ても足腰の動きに違和感があった。低い姿勢から攻め上げる平戸海の猛攻に軽く押し出された。平戸海の美しささえ感じられる見事な身のこなしもさることながら、足腰の位置が定まらない大関の動きの方が目立った。

○大関琴櫻は、伸び上がったままの腰高で、しかも前傾姿勢もとれていない状態で大栄翔の圧力を受けて土俵外に運び出された。先場所までのような腰高ながらも前へ攻め続ける動きは見られず。土俵上の動きを見る限り、膝か足首にトラブルがあるように感じた。霧島同様に、「改名が禍した」と言われぬように、と思う一番だった。

○大関豊昇龍は、四大関の中では比較的健常で期待値も高い場所前の報道内容だったが、熱海富士に立ち合いですぐに左まわしを引きつけられてしまい、抵抗を試みはしたものの徐々に熱海富士の形に持って行かれてしまい、最後は上手投げで転がされた。大関の敗因は明らかに「立ち合い」にあった。低さと鋭さが無い大関の立ち合いに対して、立ち合いで素早く左で絶好の位置にまわしを引き、大きな体で前に進みながら仕事をする熱海富士の理詰めの相撲が勝っていた。

○そして結びの一番、横綱照ノ富士は新小結大の里の動きにまったく対応出来ず、土俵際でせっかく取った上手もすくい投げて打ち返されて土俵外に転がされた。仕切りの最中の動きを観察していると膝と腰が万全でないことは感じ取れたが、土俵外に転がされた後で起き上がった時に膝の具合を確かめる所作が見られたので、鋭い攻めに抗するための踏ん張りや悪い膝をさらに痛めたように見えた。場所直前の稽古中に脇腹の筋肉を痛めたという情報もあり、今場所この先が見えるような一番だった。

横綱・大関に勝った若手力士がインタビューを受けると、破顔一笑が見られるのが通常だが、勝った若手力士に「笑み」はなく、対等に戦ってライバルに勝った力士の毅然とした受け答えのようで印象的だった。

というような次第で、新入幕力士が優勝するという珍事の次の場所は「関脇以上の力士が全員負ける」という珍事で幕開けとなった。

<2> 二日目

初日の取組で見たとおり、照ノ富士・貴景勝は今日から休場。特権階級である横綱・大関には「地位保全」の特約があり一旦避難が可能だが、関脇以下の力士ならばそうはいかない。つまり、そう何度も使って良い手段ではないような気がする。その昔なら、入門早々の若手力士に転がされた横綱は身を退く決意をしたものだが、時代が変りそういう話題すら出ては来ない。

今場所の番付では、幕内力士は42名、初日から休場の朝乃山・尊富士を除く40名が出場している。当然のこととは思いますが、初日に白星を得たのは20名、その内二日目も勝ち2勝を上げたのは10名。しかし、この中に三役力士が一人もいないのは、いささか困った出来事である。

<3> 三日目 無敗は7名に

そして、三日目を終えて無敗力士は宇良・御嶽海・湘南乃海・金峰山・竜電・欧勝馬・宝富士の7名になってしまった。1敗力士の中には大の里もいるし、琴櫻・若元春が少しずつ持ち直してきているようなので、この先どうなっていくのか。まだまだ想像も想定もできない。

<4> 四日目

竜電・欧勝馬・金峰山が脱落し、全勝で走り続けるのは、宇良・御嶽海・湘南乃海・宝富士の4名になった。この日、1敗同士の対戦として関脇若元春・小結大の里戦が組まれたが、興行政策としては失策だったように思う。1敗を堅持して行く可能性が強い両力士を後半戦で戦わせるほうが良かったように感じた。

<5> 五日目(序盤終了)

	大関	関脇	小結	平幕	
5勝				宇良・御嶽海・宝富士	全勝は平幕の三力士、 1敗で6力士が並ぶ。 序盤の5日が終わったら、 こんなことになった。
4勝1敗	琴櫻		大の里	大栄翔・湘南乃海・竜電・欧勝馬	

<6> 六日目 全勝は一人だけに

宝富士は宝富士らしい攻めだったが、欧勝馬の叩きにあって1敗に後退。湘南乃海は錦富士をしゃにむに寄りたてて1敗を堅持。

宇良・御嶽海的全勝同士の対決は、宇良の動きの速い身のこなしからの上手出し投げに凱歌が上がった。大栄翔は自信と力に溢れた突き押しで若元春を突き倒して、これまた1敗を堅持。右足が空足を踏むように崩れた若元春が足を痛めていなければ・・・と気がかりな一番だった。

大の里・琴櫻戦は、大の里が右をさして下手を掴むと間髪を入れず体を寄せて斜めに圧力をかけて前進し、琴櫻に何もさせずに寄り切った。これで無敗は宇良だけになり、三役で1敗は大の里だけとなってしまった。

明日の琴櫻・宇良戦が賜杯争いの最初の分岐点になりそうな気がする。

	大関	関脇	小結	平幕	
6勝				宇良	
5勝1敗			大の里	大栄翔・御嶽海・湘南乃海・竜電・欧勝馬・宝富士	

<7> 七日目 全勝がいなくなってしまった

御嶽海・竜電・欧勝馬が脱落して2敗になり、宇良が琴櫻に敗れたことで、先頭集団としては1敗で5人が並ぶ形になった。琴櫻と湘南乃海は攻めて勝っている相撲よりも流れの中で勝ちを得たような取り口が目立つ。

一方、大の里・大栄翔・宝富士の相撲には「自分の主張」と「攻める力」が感じられる。今場所も中日を前に無

	大関	関脇	小結	平幕	
6勝1敗			大の里	宇良、大栄翔・湘南乃海・宝富士	敗はいなくなってしまった。

<8> 中日(八日目) 折り返し点では1敗は二力士だけ

幕内の取組の第一番目は、新入幕の時疾風と十両に陥落した遠藤の対戦。低い腰の構えからのすり足で出る遠藤の光るような相撲に凱歌が上がった。十両に陥落した場所、無傷で勝ち越した遠藤に拍手。

続いて土俵に上がった6勝1敗の宝富士の対戦相手は好調な竜電。相撲巧者同士の内容のある取組を征したのは宝富士だった。

湘南乃海は受け身の相撲のまま御嶽海の積極的な攻めに敗退。勝負が終わった後できちんと歩けない状態だった御嶽海の明日以降が心配される。

本日注目の一戦は、1敗同士の対決である大の里対大栄翔。大栄翔が果敢に攻めて土俵際まで進んだところで、巧みに身をかわした大の里が叩き込みで勝利を得た。

中日を終って1敗で残ったのは大の里と宝富士、その後を追う2敗力士は5人という状態になった。

	大関	関脇	小結	平幕
7勝1敗			大の里	宝富士
6勝2敗	琴櫻			大栄翔・宇良・御嶽海・湘南乃海

朝乃山・尊富士の休場で始まった今場所、休場力士は照ノ富士・貴景勝・高安・霧島・若元春とさらに広がって

きた。賜杯争いもさることながら、休場力士の増加についても今後の注目点になってきた。

<9> 九日目 さて後半戦が始まったら・・・

幕内の取組の第一番目は宝富士・美ノ海戦。宝富士はいつものように低い姿勢からの攻めを始めたのだが、今場所も好調な美ノ海の動きはそれ以上に速く細かく上手く、37才のベテランを征した。

昨日の相撲で足を痛めて歩くことも困難な状態だった御嶽海は、出場したものの左大腿部にサポーターをして仕切りの動作もままならぬ足取りだったが、金峰山を注文相撲で上手投げで下した。まともにあたったら勝てる可能性はまったくないような足の状態だったが、あと六日土俵に上げられるのだろうか。

熱海富士が2敗の大栄翔を快心の速攻相撲で押し出し、会場にざわめきが長く残ったところで大の里・平戸海が土俵に上がった。熱海富士の速攻相撲をなぞるかのような平戸海の速攻で大の里はあっという間に土俵外に運び出された。これにより、1敗力士はいなくなり、賜杯争いの中心は2敗力士に移った。琴櫻も阿武咲を難なく下して2敗を堅持し、先頭集団は2敗の5力士が並ぶ形になった。

	大関	関脇	小結	平幕
7勝2敗	琴櫻		大の里	宝富士・御嶽海・湘南乃海

三日目から休場した高安が再出場したのは驚きだったが、豊昇龍を豪快なすくい投げで転がしたのもそれ

以上の驚きだった。かくして、豊昇龍も4敗となり話題の外へと放り出されることになった。

<10> 十日目 終盤戦を前にして・・・

宝富士は腰高の一山本を寄り切って勝ち越しの1勝。御嶽海は一昨日の怪我の影響で踏ん張りが効かず勝峰にあっさり敗れて3敗に後退。湘南乃海は翠富士の執拗な攻めに苦勞したが、うまく凌いで勝ち越し。攻めは少ないが守りが強い湘南乃海らしい勝ち方だった。

大の里は豪ノ山の突進を押し返して圧勝し、新入幕以来三場所連続の勝ち越しを達成。

結びの一番は、高安が昨日の豊昇龍に続き琴櫻をも上手投げで転がし、優勝戦線から引きずり下ろした。

8勝2敗の先頭集団は3人になり、相撲内容から見ると大の里が輝いている感じがしてきた。

	大関	関脇	小結	平幕
8勝2敗			大の里	宝富士・湘南乃海

明日は宝富士と湘南乃海の直接対決があり、後に続く7勝3敗の力士が7人並んでいる。まだまだ一波乱ありそうな終盤戦

が明日から始まる。十両では遠藤が10戦全勝、追いかける若隆景が9勝1敗、明日は直接対決。

<11> 十一日目

まずは気になる十両の取り組み結果の確認から。

1敗の若隆景が全勝の遠藤を破り、新十両の阿武剋を合わせて三人が1敗で並ぶ形になった。

幕内の取組の前半の好取組は2敗同士の対決、湘南乃海・宝富士戦。低い姿勢から湘南乃海の腰に食らいついた宝富士だったが、流れの中で湘南乃海が放った小手投げで勝負が決まってしまった。

結びの一番、豊昇龍・大の里戦は、豊昇龍が両まわしを引いた状態から繰り出した瞬発力のある下手投げで大の里を転がした。結果として、先頭の9勝2敗は湘南乃海だけとなり、3敗で6人が並ぶことになった。

	大関	関脇	小結	平幕
9勝2敗				湘南乃海
8勝3敗	琴櫻		大の里	大栄翔・御嶽海・宝富士・欧勝馬

優勝ラインは12勝3敗なのだろうか、11勝4敗となると少々低レベルすぎることになるし・・・。

<12> 十二日目

十両の優勝を争う三力士は全員勝ち残った。明日の遠藤・阿武剋戦で行く末が見えてきそうな気がする。

欧勝馬は腰高・前のめりの正代を叩き込んで3敗を堅持。大栄翔は自分の攻めも良かったが、それよりも力強く素早かった明生の攻めに屈して脱落。

3敗同士の対決、大の里・宝富士戦は大の里の一方的な攻めであったという間に勝負がついてしまった。単独トップの湘南乃海は、阿炎の突き押しになすすべなく敗退し、2敗力士はいなくなりました。

	大関	関脇	小結	平幕
9勝3敗	琴櫻		大の里	湘南乃海・欧勝馬

御嶽海は大腿部を痛めていて踏ん張ることもできぬまま豊昇龍に押し出されて、これまた脱落。琴櫻は若元春の攻めに

苦戦し、土俵際の投げの打ち合いの結果微妙な勝負で白星を得たが、物言いのつく際どい勝負だった。

先頭集団は9勝3敗で4人が並ぶことになった。「攻撃型の相撲の大の里・欧勝馬」対「守り型の相撲の琴櫻・湘南乃海」という図式になった。あと三日間でどういう展開になるのか。

<13> 十三日目

優勝戦線を左右する取組は後半に集中したため、館内では前半は静かな盛り上がりだった。そんな中で佐田の海・竜電・美ノ海らが歓声が上がる良い相撲を見せてくれた。

そして本日の最大の注目の取組、宇良・大の里戦。多くの観客は、宇良が何かをしてくれるのではないかと期待したようだったが、大の里は冷静だった。かなり低い位置から潜るか足取り狙いかのように突っ込んでくる宇良を、良く見てうまく裁いた大の里が勝ち名乗りを受けた。

関脇若元春に挑んだ新入幕の欧勝馬は、巧みな前さばきに対応出来ず押し出されてしまった。

	大関	関脇	小結	平幕
10勝3敗	琴櫻		大の里	

琴櫻と湘南乃海の3敗同士の直接対決は、琴櫻の一方的な相撲で短時間で決着がついた。湘南乃海には攻めの型がないので、守り相撲だけでは大関には通用しなかつた。

相手が誰であれ、立ち合いで鋭く突っ込むか体ごと前進していくかしないと勝ち星は転がっては来ない。

湘南乃海が今場所を終えた所でこの点を学んでいれば、来場所の成果に繋がるだろうが、どうなるか。

かくして、残り二日間の所まで来て、大関と小結が残ってくれて、相撲協会としてはメンツが立ったというところか。優勝争いが11勝4敗同士の決定戦になるような、無様な結末にならないことを願うばかり。

<14> 十四日目

大の里は湘南乃海を難なく破って3敗を守った。湘南乃海の受け身の相撲では大の里の攻めには勝てない。

結びの一番、琴櫻・阿炎戦でも同じような結末になった。果敢に攻めまくる阿炎に対して、踏み込みも攻めもない琴櫻の相撲では結果を見るまでもない感じだった。

かくして新小結大の里が11勝3敗で単独トップに立ち、かなり優勢な状況になった。念のため10勝4敗で後を追う力士を確認してみると、豊昇龍・琴櫻・阿炎・大栄翔の4人だった。

発表された千秋楽の取組を見たら、大栄翔対琴勝峰・阿炎対大の里・豊昇龍対琴櫻の順になっていた。

<15> そして千秋楽

大の里は、阿炎の突き押しをものともせず体を寄せながら腰を移動して圧力をかけ続けて、土俵際で押し出し。阿炎の出方がわかっているかのような冷静な対処の仕方ですべて勝利を収め、12勝3敗の優勝となった。

今場所途中休場の関脇霧島は来場所関脇に陥落、同じく貴景勝は来場所勝ち越せなければ陥落。

横綱照ノ富士も、いつまでも休場と優勝を繰り返せるとは思えない。新しい力がどんどん登場し始めて、小手先の小細工で生き残るのには限界があるだろう。まだしばらくはこんな具合の場所展開が続くような気がする。

「新しいヒーローの誕生!」と浮かれている向きも少なくないが、相撲界は危機的な状況にあるということを認識する必要がある。

- 安定しない大関・横綱 (ムード先行の昇格基準は限界)
- 怪我人続出 (体重・体格優先の育成方法に問題)
- 基本技術の習得 (筋トレも良いが、四股・すりあし・鉄砲も)

以上